



---

# ティーチングポートフォリオ

---



湘南医療大学保健医療学部看護学科

櫻井友子

作成日：2026 年 4 月 30 日

## 1. 教育の責任

私が所属する臨床看護領域は、看護学科において科目の単位数が比較的多く、また学生の卒業後の基本的な看護実践能力に影響を与える領域である。将来、看護師として日本の医療を担う人材を育成すべく、看護専門職としての基本的な知識・技術・態度を担当する授業（講義・演習・実習）を通じて、学生が身につけることができるよう教授していく責任がある。特に、臨床看護領域のクリティカルケアに身を置いているため、心身の変化が大きい急性期にある患者を守り、より安全なケア提供をするための基本的な能力を育めるよう力を尽くす必要がある。

また大学院教育においては、多くの学生が看護職経験を有しており、臨床現場における看護と研究をつなぎ、大学院生の看護実践力をより向上させることを通じて、現場の看護および看護学への貢献を図る責務がある。

本学での教育活動において、2026 年度に自身が担当する科目および役割は以下の通りである。

### 【担当科目(学部)】

- ・ ナーシングスキル学Ⅱ(必修・2 年通年)
- ・ ヘルスアセスメント学Ⅱ(必修・2 年後期)
- ・ 看護基盤実習Ⅱ(必修・2 年後期)
- ・ 成人看護方法論Ⅰ(必修・2 年後期)
- ・ ヘルスアセスメント学Ⅲ(必修・3 年前期)
- ・ 災害看護学(必修・3 年前期)
- ・ 急性期看護実習(必修・3 年後期)
- ・ 統合実習(必修・4 年前期)
- ・ チーム医療論(必修・4 年後期)

### 【担当科目(大学院)】

- ・ フィジカルアセスメント(選択・1 年前期)

## 2. 私の理念・目的

### 1) 私の理念

#### (1) 自主自立と自主自律の精神を育む

大学での学修は高校までとは異なり、自身の責任において構築する必要がある。看護学はカリキュラムの特性上自由度は少ないが、そのような中でも大学生活において自身がいつ・何を学ぶべきか、自身の責任で考え、決定していく必要がある。また、大学は多くの学生がバイト等により社会生活を広げていく時期であり、学外での学びも重ねていく時期である。

学内外でのバランスをとりながら学びを深めることは、大学生活をより充実させるために必要であり自立と自律を要する。看護基礎教育を学んでいる時期に得られる学びや経験は、その後の各人の看護観に影響を及ぼすため、学生へは自立・自律した大学生活を送れるよう指導

していきたい。

## (2) 看護専門職としての姿勢を育成する

看護は様々なチームで動いている。他職種間のこともあれば看護師間のこともあり、また患者の役割が大きいチームなど様々ある。チームにおいては各人の役割や思いをおもんばかった立ち居振る舞いが必要だが、そのような中で看護専門職としての役割を全うするには、必要な知識・技術をアップデートすることや、他者との円滑なコミュニケーション能力などが求められる。学生自身が目指す看護師像に近づくために、必要な能力が何かを考え続け、自己研鑽を重ねられるよう支援していく。

## 2) 理念をもつに至った背景

私は学生の力を信じている。だからこそ、学生へは自身の目指す看護師像に向かって自立・自律した大学生生活を送ってもらいたい。本学はチューター活動が充実しており学生が教員へ相談しやすい環境が整っている一方、教員に依存しがちになる学生も含まれている。Z 世代は少子化などの時代の流れより個が大切にされている一方で、自分で自分のことが決められなかったり、周りの大人が何とかしてくれるものと甘えている学生も含まれる。大学生という時間は青年期から成人期へ成長する時期であり、多かれ少なかれそのような感覚を持つ学生がほとんどであるが、質の高い看護職を要請するには自立・自律の精神を育み看護専門職としての姿勢を育成することが必要であると考え。それが本学看護学科の教育目的・目標・DP (資料1)にもかなうものであると考える。

## 3. 教育の方法・戦略

教育の方法・戦略については、その授業目標に応じて適宜考えるが、今回は前述の自立・自律の精神を育み看護専門職としての姿勢を育成するための取り組みについて記述する。

### 1) 目的・目標を明確にする

講義・演習・実習を問わず、授業においてはその目的や目標はシラバスにも明示しているが、今何を行っているのか？その目的はなんであるのかを明確にするよう心がけている。グループワークや演習において、学生が何もせずにボーっとしていたり、意図とは違う取り組みをする、または遊んでしまうといった光景を見かけることがあるが、そのようなときは学生から「今何の時間？」「何をするのか分からない」といった言葉を聞く。こういった反応がある際はたいてい、教員の指示が不明瞭であったり、学生の学修の進捗状況に合わない課題であったりする。

看護学生はまじめな学生が多いので、「やるべきこと」が明確であればほとんどの学生は取り組むことができる。「いま」取り組む目的を明確にし、加えてその取り組みの結果が何につながるのかを段階的、長期的に示すことにより、「いま」の自分が何をすべきかを考えて行動することができるようにしたい。より効果的な授業運営のためには指示を明確にする必要があり、以下を心掛けている。

- 学生に分かりやすい言葉(発問)を選択する

- 同じことを繰り返し伝える
- 学生に何をするのか確認する
- 上記の基本的なコミュニケーションをおろそかにしない
- 課題が適さなくなった場合は準備したものに固執せず、学生と相談して変更するなど柔軟に対応をする。
- 行動が伴わない学生に対しては、その行為によるデメリットが自身の責任にあることを明確する。失敗の経験がなければ学習への意欲につながらない者もいるので、長期的な視点で見守る。

## 2) ジグソー学習の取り組み

学生がより主体的に自立・自律して学習することを促すために、ヘルスアセスメント学Ⅲにおいてジグソー学習を取り入れた。ジグソー学習は、学習課題を分割し、グループ内で分担して学習した後に、メンバー間で教え合って全体像を理解する協同学習の手法である。グループメンバー全員がお互いに不可欠な存在となり教え合うため、アクティブラーニング効果やコミュニケーション能力の向上に高い効果があるとされる。

ヘルスアセスメント学Ⅲにおけるジグソー学習の実際は以下のとおりである。

- 1 グループ 5～6 人でグルーピング
- 5 つの技術を提示し、各グループメンバーがどの技術を担当して学ぶか、グループ内で相談して決める。
- 学生は担当する技術について、それぞれの教員よりレクチャーを受ける。
- 学生は学んだ技術を持ち帰りグループメンバーに教える。
- 全ての技術を統合して最終課題である技術試験に臨む。

## 4. 学習成果

- 各授業での学生からリアクションペーパーでは、「興味がわいた」「(既習学習について)繰り返し復習することが大事」などのコメントが得られている。
- 学生の質問に対しては、次回の授業または **manaba** にて回答し、学生の疑問に誠実に回答することで、次の質問を誘発することができた。
- 演習ではジグソー学習を取り入れたことによって、多くの学生において看護ケア技術の学習・練習を「やらなければ」という意識を高めることができた。

## 5. 改善のための努力

### 1) 教員間のより良いチームワーク

新カリキュラム科目において領域横断にて今までとは異なるチームで授業を担当することが多いため、より良いチームとなるよう努力したい。

### 2) 学生の個性・特徴を尊重する

自立・自律した学生を育てるためにクラス(集団)の特徴と、個の特徴を見極めて、その特徴に適した授業展開を目指す。

#### 6. 今後の目標

領域横断の科目を運営するにあたり、情報伝達方法や各教員の関係性への配慮が必要であることが浮き彫りとなった。2026 年度はヘルスアセスメント学Ⅲとチーム医療論において取りまとめを行う役割となっている。個の教員の努力はもちろん必要であるが、個が機能するためにはチームが円滑である必要があるため、今後の授業運営にあたっては以下を目標としたい。

長期目標:領域横断の授業展開ができるチームを形成する

短期目標:各教員と良好な関係を築き、連絡調整の懸け橋となる(2026 年度内)

#### 【資料】

##### 1. 湘南医療大学保健医療学部看護学科 2026 年度シラバス